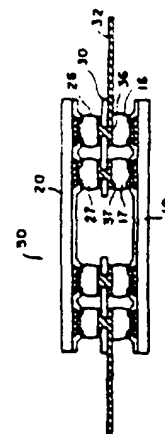


(54) ELECTRONIC DEVICE

(11) 4-366167 (A) (43) 21.12.1992 (19) JP
(12) Appl. No. 3-170485 (22) 14.6.1991
(71) YAMAHA CORP (72) MASAYOSHI OMURA
(51) Int. Cl. H01L25/065, H01L25/07, H01L25/15

PURPOSE: To improve easiness of manufacture and also improve mounting density in an electronic device combining IC chips such as an LSI chip.

CONSTITUTION: A plurality of IC chips 10, 20 are fixed and electrically connected by a plurality of connecting materials with the electrode forming surfaces directed inside for the face-to-face arrangement. Moreover, electrical terminals such as leads 32 connected to at least one integrated circuit of the IC chips 10 and 20 are led to outside from the space between chips. Each connecting material is formed by protruding electrodes 16, 26 and electrode connecting portion 36. The face-to-face bonding can be done easily by previously providing the protruding electrodes 16, 17, 26, 27 in the chip side or lead side. In addition, a high density mounting can be realized by stacking and bonding a plurality of chip sets 50.



50: chip set

日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平4-368167

(43) 公開日 平成4年(1992)12月21日

Int. Cl. ⁶	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
G 1 L 25/065				
25/07				
25/18				
	7220-4M		H 0 I L 25/ 08	Z

審査請求 未請求 請求項の数 3 (全 3 頁)

出願番号 特願平3-170485

出願日 平成3年(1991)6月14日

(71) 出願人 000004075

ヤマハ株式会社

静岡県浜松市中沢町10番1号

(72) 発明者 大村 昌良

静岡県浜松市中沢町10番1号ヤマハ株式会社内

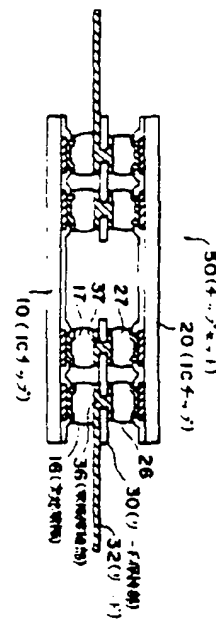
(74) 代理人 弁理士 伊沢 敏昭

【発明の名称】 電子装置

【要約】

【要約】 L S Iチップ等のI Cチップを組合せた電子において、製造容易性を改善すると共に実装密度の向上を図る。

【要約】 複数のI Cチップ10、20を電極形成面を有して対向配置した状態で複数の接続体により固定し電気接続すると共に、I Cチップ10及び20のそれぞれ一方の集積回路に接続されたリード32等の端子をチップ間の空間から外方に導出する。各接続体は突起電極16、26及び電極接続部36等により構成される。突起電極16、17、26、27等をチップ10のリード側に予め設けておくことによりフェース・トゥ・フェースで簡単にボンディングを行なえる。また、このように構成されたチップセット50を複数重ね積することで高密度の実装が可能になる。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 (a) 一方の主面に第1の集積回路及びこの回路の複数の電極が形成された第1の集積回路チップと、 (b) この第1の集積回路チップの一方の主面に対向し且つ接近して配置される第2の集積回路チップであって、前記第1の集積回路チップの一方の主面と対面する一方の主面には第2の集積回路が形成され且つこの回路の複数の電極が前記第1の集積回路の複数の電極に対応して形成されているものと、 (c) 前記第1及び第2の集積回路チップを前記対向し且つ接近した配置状態に固定すると共に両集積回路チップの対応する電極同士をそれぞれ電氣的に接続するように両集積回路チップ間に介在配置された複数の接続体と、 (d) 前記第1及び第2の集積回路チップの間で前記第1及び第2の集積回路のうち少なくとも一方のものに電氣的に接続され、両集積回路チップの間から外方に導出された複数の電気端子とをそなえた電子装置。

【請求項2】 (a) 一方の主面に第1の集積回路及びこの回路の複数の電極が形成された第1の集積回路チップと、 (b) この第1の集積回路チップの一方の主面に対向し且つ接近して配置される第2の集積回路チップであって、前記第1の集積回路チップの一方の主面と対面する一方の主面には第2の集積回路が形成され且つこの回路の複数の電極が前記第1の集積回路の複数の電極に対応して形成されているものと、 (c) 前記第1及び第2の集積回路チップを前記対向し且つ接近した配置状態に固定すると共に両集積回路チップの対応する電極同士をそれぞれ電氣的に接続するように両集積回路チップ間に介在配置された複数の接続体と、 (d) 前記第1及び第2の集積回路チップの間で前記第1及び第2の集積回路のうち少なくとも一方のものに電氣的に接続され、両集積回路チップの間から外方に導出された複数の電気端子と、 (e) 前記第1及び第2の集積回路チップの間で前記第1及び第2の集積回路の各一部又は全部を気密封止するように両集積回路チップの間に介在配置された封止体とをそなえた電子装置。

【請求項3】 (a) 一方の主面に第1の集積回路及びこの回路の複数の電極が形成された第1の集積回路チップと、 (b) この第1の集積回路チップの一方の主面に対向し且つ接近して配置される第2の集積回路チップであって、前記第1の集積回路チップの一方の主面と対面する一方の主面には第2の集積回路が形成され且つこの回路の複数の電極が前記第1の集積回路の複数の電極に対応して形成されているものと、 (c) 前記第1及び第2の集積回路チップを前記対向し且つ接近した配置状態に固定すると共に両集積回路チップの対応する電極同士をそれぞれ電氣的に接続するように両集積回路チップ間に介在配置された複数の接続体と、 (d) 前記第1及び第2の集積回路チップの間で前記第1及び第2の集積回路のうち少なくとも一方のものに電氣的に接続され、両集

積回路チップの間から外方に導出された複数の電極とを有するチップセットを複数個そなえ、これらチップセットを前記電極が形成された主面とは反対側面に重ね合せ且つ接合したことを特徴とする電子装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】この発明は、LSIチップの数のIC（集積回路）チップを組合せた電子装置とし、複数のICチップを電極形成面を内側にして重ねた状態で受配電等の複数の接続体により導出する電気接続したことにより製造容易性を改善する実装密度の向上を図ったものである。

【0002】

【従来の技術】従来、ICチップを組合せた電子装置としては、図15～16に示すようにリードフレームチップ保持部1Aの一面及び他面にICチップ2及び3をそれぞれ裏面に固定すると共にICチップ2及び3の電極をボンディングワイヤ4及び5によりそれぞれリード1a及び1bに接続し、樹脂体6によりチップ2、3、チップ保持部1A、ボンディングワイヤ4、5及びリード1a、1bのチップ近傍部分をモールド封止したものが知られている（例えば実開平2-248号公報参照）。

【0003】また、別の従来装置としては、図17のようにリード1a、1bから分岐した上下のチップ保持部1A、1Bに図15～16で述べたと同様にチップ2A及び3Aと2B及び3Bとをそれぞれ固定すると共にこれらのチップをボンディングワイヤ4A及び4B及び5Bとによりリード1a、1bにそれぞれ接続し、樹脂体6によりICチップ2A、3A、2B、3B、チップ保持部1A、1B、ボンディングワイヤ4A、5A、4B、5B及びリード1a、1bのチップ近傍部分をモールド封止したものが知られている（同公報参照）。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】図15～16の装置によると、2チップを重ねて結合したことで実装密度の向上が可能であるが、製造が容易でないという問題がある。すなわち、ICチップ2及び3はいずれも形成面を外側に向けた状態でチップ保持部1Aに取り付けられるため、電極形成面やボンディングワイヤを露出しないよう特別の注意を払って取扱う必要があり、他方のICチップ2についてワイヤボンディングが完了した後他方のICチップ3についてワイヤボンディングを行うときはICチップ2の電極形成面やボンディングワイヤを傷つけないよう保護するのが容易でない。

【0005】また、図17の装置によると、図15～16の装置と同様の問題点がある他、組立作業に作業性を良くするためチップ保持部1A及び1Bの形状を大きくする必要があり、外形が大型化する不都合がある。

図には、多数の電極接続部36、37、38a、38bが設けられており、各電極接続部は、図5に示すようにキャリアテープ31の一方の主面から他方の主面に貫通するように形成されている。

【0019】電極接続部36は、チップ間接続兼外部導出用のものであり、それぞれリード32に接続されている。電極接続部37は、チップ間接続専用のもの、電極接続部38a、38bは、前述のダミー電極18a、18bとそれぞれ接続されるものである。電極接続部38a、38bについては、チップ間接続が不要であるため、キャリアテープ31の両主面間を貫通した形にせず、各主面に独立の接続部を形成してもよい。なお、電極接続部37、38a、38bは場合によっては省略してもよい。

【0020】リード32及び各電極接続部は、例えばCu等の金属からなり、その表面には金、スズ等がメッキされている。これは、突起電極とのぬれ性を良くするためと、酸化されやすい銅の表面を保護するためである。

【0021】キャリアテープ31には、中央孔33の他に、リード露呈孔34a~34d及び送り孔35A、35Bが設けられている。中央孔33は、キャリアテープ31の湾曲時にチップ面に当たる部分をなくすためのもので、チップ面に当るおそれがないときは省略してもよい。リード露呈孔34a~34dは、リード32の切断及び折り曲げを容易にするためのもの、送り孔35A、35Bは、キャリアテープ31を巻き取ったり、チップボンディング時に位置決めに用いたりするものである。

【0022】リード保持部30は、キャリアテープ31を切断線39に沿って切断することにより同テープから分離される。通常は、このような分離作業に先立ってICチップ10、20をリード保持部30にボンディングする。

【0023】チップボンディングにあたっては、図1に示すようにICチップ10及び20をリード保持部30に対してフェース・トゥ・フェースにて加熱・圧着する。キャリアテープ31をポリイミド等の耐熱性ある樹脂で形成しておけば、300~350℃まで変質せず使用できるため、加熱を十分に行なうことができ、突起電極をハンダで形成しても容易に溶融・接合を行なえる。なお、ICチップ10及び20の接合は、同時でもよいし、別々でもよい。

【0024】チップボンディングの後、キャリアテープ31からリード保持部30を切断・分離すると、図1に示すようなチップセット50が得られる。このようなチップセット50では、ICチップ10及び20の集積回路が並列接続されることになるが、各チップ毎に独立に集積回路を動作させるためには、次の(イ)又は(ロ)のいずれかの方法を採用することができる。

【0025】(イ) ICチップ10又は20において少なくとも1つのリードに対する電気接続を切断又は非接

続状態としておくことにより各チップを異なるモードにて動作させる。

【0026】(ロ) ICチップ10及び20のうちくとも一方のみに特別な信号にตอบสนองして該一方のみを動作可能とする回路を予め集積化しておく。

【0027】図6は、チップセット50の取付構造例を示すものである。ICチップ10、20及びリード保持部30を含むチップセット50は、電気端子との多数のリード32が四方に導出されている。配線(又はパッケージ基板)40の一主面には、リードに対応して多数の配線層42が設けられると共に各層毎にボンディングパッドとしての電極層44が設けられている。各リード32は、対応する配線層42の44に熱圧着等により接続される。

【0028】チップセット50上には他のチップを重ねて配置し、そのリードを基板40上の配線層に接続してもよい。また、チップセット50の上下の面ヒートシンクを接触して配置することもでき、これにすれば発熱量の多い集積回路にも十分に対処することができる。

【0029】図7は、チップセットを収納したパッケージ構造の一例として複数のチップセットをPGA(グリッドアレイ)パッケージに収納した構成を示すのである。

【0030】パッケージ基板60には、中央部を略すように例えば3段階的に複数のピン64A、64B、64Cが設けられており、2及び3段目のピン64B、64Cは基板60上で絶縁枠62B、62Cをそれぞれ通して各々の枠の上部に現われるように配置される。

【0031】基板60の中央部には、図1に示した例例えば3つのチップセット50A、50B、50Cを重ねて配置される。チップセット50Aは下面において基板60の表面に接着材層66aにより接着されるに各リード52Aが1段目の対応するピン64Aの溝部に接続される。チップセット50Bは下面及び0Cの下面にそれぞれ接着材層66b、66cにより着せられると共に各リード52Bが2段目の対応する64Bの内方端部に接続される。チップセット50C各リード52Cは3段目の対応するピン64Cの内方に接続される。

【0032】基板60上には、チップセット50A、0C、ピン64A~64C、絶縁枠62B、62Cの上面にキャップ68が配置される。キャップ68は下溝部を接着材層66dにより基板上面に固着することによりキャップ内の物体が気密封止される。なお、接着材層66a~66dとしては、樹脂、ハンダ、エポキシ等のうち任意のものを用いることができる。

【0033】上記実施例において、リード保持部

能となる。

【0045】一例として、チップセット100(1)～100(n)を半導体メモリのチップセットとすれば、小型で大容量の記憶装置を実現することができる。この場合、各チップの基板への配線長が短いため配線による信号遅延が少なく、高動作が可能である。従って、かような記憶装置は、CPUのメインメモリ等として用いるに好適なものである。

【0046】図14は、この発明の更に他の実施例によるチップセット50aを示すものである。図14において、図1と同様な部分には、同様の符号を付して詳細な説明を省略する。

【0047】チップセット50aの特徴は、第1にICチップ10、20の突起電極17、27を直結したことであり、第2に外部への電極導出を一方のチップ10の突起電極16からリード32により行なうようにしたことである。この場合、突起電極16は、外部導出専用となり、突起電極17、27は、チップ間接続専用となる。また、リード32は、図15に示したようなリードフレーム又は中央部に孔を設けたキャリアテープを用いるなどして容易に形成可能である。

【0048】チップセット50aにあつては、図8～12に示した封止構造を採用することもできるが、別の方法として、ICチップ10及び20の間に樹脂等を注入し、硬化させるなどして封止用絶縁体120を介在配置してもよい。

【0049】

【発明の効果】以上のように、この発明によれば、第1及び第2の集積回路チップを対向・接近させた状態で複数の接続体により固定し且つ電気接続するようにしたので、製造容易で実装密度の高い電子装置を実現可能な効果が得られるものである。

【0050】また、第1及び第2の集積回路チップの間に対止体を介在配置すると、パッケージを用いなくとも信頼性の向上が可能となる効果が得られる。

【0051】さらに、複数のチップセットを電極形成面と反対側の面で重ね合せ且つ接合すると、実装密度が大幅に向上する効果も得られる。

【図面の簡単な説明】

【図1】 この発明の一実施例によるチップセット50の断面図である。

【図2】 図1の構成におけるICチップの斜視図である。

【図3】 図2のA-A'線に沿う断面図である。

【図4】 図1の構成に用いるキャリアテープの斜視図である。

【図5】 図4のB-B'線に沿う断面図である。

【図6】 図1のチップセットを配線基板に取付け状態を示す斜視図である。

【図7】 図1のチップセットを複数組合せてパッケージに収納した状態を示す断面図である。

【図8】 この発明の他の実施例によるチップセット50bの断面図である。

【図9】 図8の構成におけるICチップの斜視図である。

【図10】 図9のC-C'線に沿う断面図である。

【図11】 図8の構成に用いるキャリアテープの斜視図である。

【図12】 図11のD-D'線に沿う断面図である。

【図13】 図8のチップセットを配線基板に取付け状態を示す断面図である。

【図14】 この発明の更に他の実施例によるチップセット50cの断面図である。

【図15】 従来の電子装置の一例を示す斜視図である。

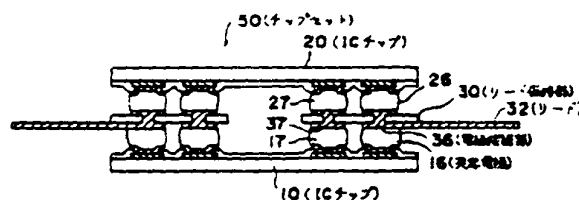
【図16】 図15のX-X'線に沿う断面図である。

【図17】 従来の電子装置の他の例を示す断面図である。

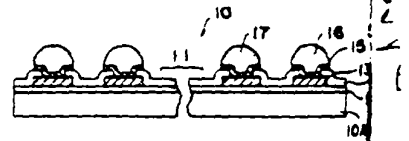
【符号の説明】

10、20、70、80：ICチップ、16、17、26、27、94、95、104、105：突起電極、0：リード保持部、32：リード、36、37、1、102：電極接続部、50、50A～50C、a、100、100(1)～100(n)：チップセット、90：配線保持部、92：配線層、96、101：封止用突起部、103：突起接続部、120：封止絶縁体。

【図1】



【図3】



10

この発明の一実施例によるチップセットである。

図1の構成におけるICチップの斜視図である。

図2のA-A'線に沿う断面図である。

図1の構成に用いるキャリアテープの斜視図である。

図4のB-B'線に沿う断面図である。

図1のチップセットを配線基板に取付けた状態を示す斜視図である。

図1のチップセットを複数組合せてパッケージした状態を示す断面図である。

この発明の他の実施例によるチップセットである。

図8の構成におけるICチップの斜視図である。

図9のC-C'線に沿う断面図である。

図8の構成に用いるキャリアテープの斜視図である。

図11のD-D'線に沿う断面図である。

図3のチップセットを配線基板に取付けた状態を示す断面図である。

この発明の更に他の実施例によるチップセットの斜視図である。

従来の電子装置の一例を示す斜視図である。

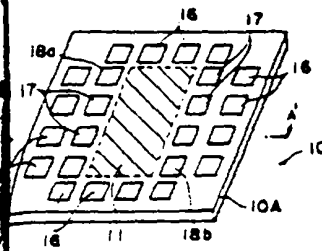
図15のX-X'線に沿う断面図である。

従来の電子装置の他の例を示す断面図である。

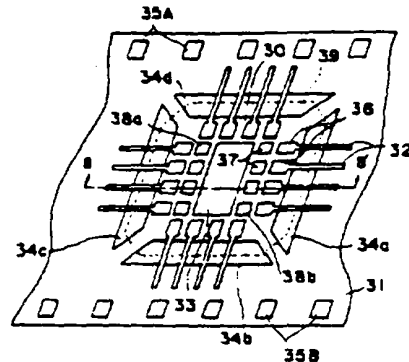
明]

70、80：ICチップ、16、17、94、95、104、105：突起電極保持部、32：リード、36、37、50、50A～50C、100(1)～100(n)：チップ固定保持部、92：配線層、95、101、103：突起電極部、120：封止部

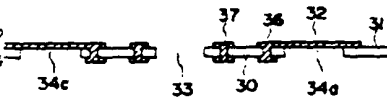
【図2】



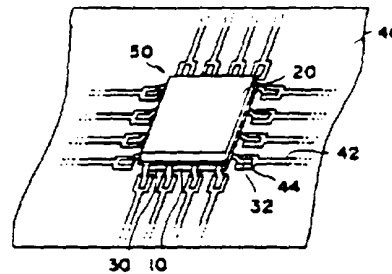
【図4】



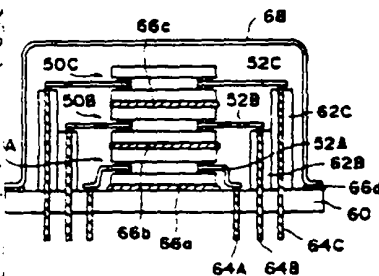
【図5】



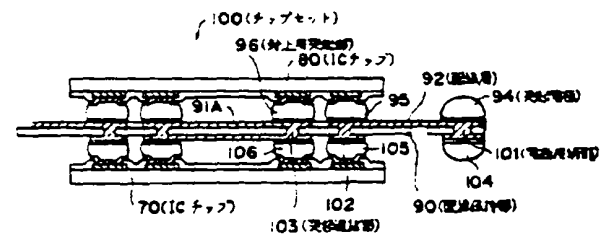
【図6】



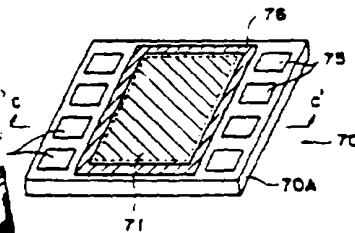
【図7】



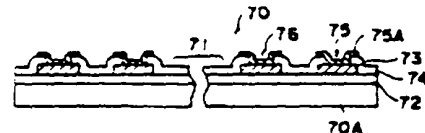
【図8】



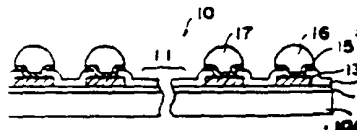
【図9】



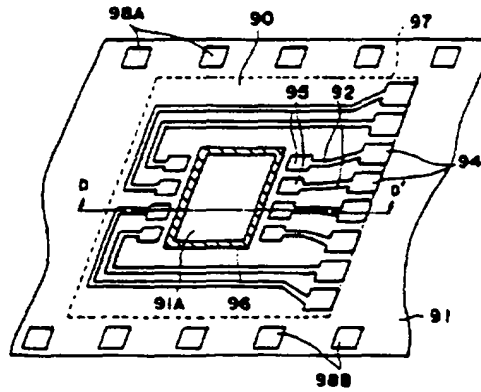
【図10】



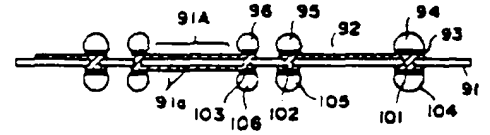
【図3】



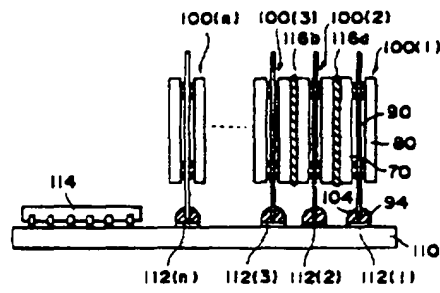
【図11】



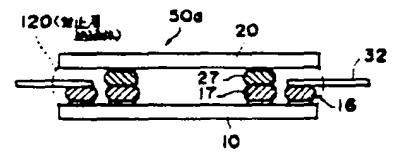
【図12】



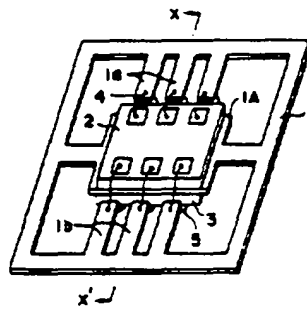
【図13】



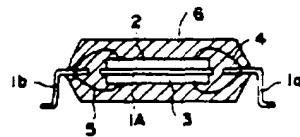
【図14】



【図15】



【図16】



【図17】

